

【お知らせ】展示室の一時閉鎖について

現在実施している特別展「NVLU 奄美プロジェクト -研究・保全・そして未来-」が5月31日で終了となり、6月から7月にかけて展示替え作業を行います。

展示替え期間中は日によってご見学いただける部屋が異なります。ご不便をおかけいたしますが、ご来館の際は予めご了承くださいますようお願いいたします。

#日本獣医生命科学大学 #博物館

[閉鎖日程]

〈自然系展示室〉

6月3日～6月14日：展示撤収のため全面閉鎖（見学不可）

6月17日～7月5日：展示準備のため一部閉鎖（常設展示部分のみ見学可能）

7月8日～7月19日：展示準備のため全面閉鎖（見学不可）

〈定期交換展示室〉

6月3日～6月14日：展示撤収のため全面閉鎖（見学不可）

6月17日～6月20日：展示準備のため一部閉鎖（一部のみ見学可能）

※6月3日～6月14日にご来館いただいた場合、ご見学いただけるのは歴史系展示室のみとなります

■来館案内

<https://www.nvlu.ac.jp/universityinstitution/004/access/index.html/>

作業の状況により閉鎖期間が変更となる場合があります。

「来館案内」ページより最新情報をご確認いただき、ご予約の上ご来館ください。

【イベント情報】博物館登録記念！ 国際博物館の日に特別解説を実施します(追加情報)

当館は令和7年3月31日付けで改正博物館法による「登録博物館」として新規登録されました。これを記念して、国際博物館の日である5月18日に開催される本学のオープンキャンパスにて特別解説を実施します。

5月2日より参加予約の受付を開始いたしました。参加を希望される方は事前のお申し込みをお願いいたします。

#日本獣医生命科学大学 #博物館 #登録博物館 #国際博物館の日
#InternationalMuseumDay #IMD2025

〈日本獣医生命科学大学オープンキャンパス 博物館登録記念特別解説〉

【開催日】2025年5月18日

【内容①】学芸員による活動紹介

当館学芸員が博物館の登録の報告と博物館の活動紹介を行います。

(実施時間 9:35～9:50、11:40～11:55、13:40～13:55 ※各回とも内容は同じです)

【内容②】獣医保健看護学科 病態病理学研究分野による特別展解説

本学獣医保健看護学科病態病理学研究分野の教員が、現在実施中の特別展「NVLU 奄美プロジェクト -研究・保全・そして未来-」に関連した特別解説を行います。

(実施時間 12:00～12:20、14:00～14:20 ※各回とも内容は同じです)

【申込み】オープンキャンパス特設サイトよりお申し込みください

<https://www.nvlu.ac.jp/nichijyunavi/event2025/0518/index.html>

なお、特別解説の参加には事前の申込みが必須となりますが、イベント当日は予約をされていない方も博物館を見学することが可能です。現在開催している特別展「NVLU 奄美プロジェクト -研究・保全・そして未来-」は5月末で終了となるため、5月18日はオープンキャンパスで特別展を見学する最後のチャンスとなります。興味のある方はぜひ博物館までお立ち寄りください！

【お知らせ】「どうぶつマップ」にて本学が紹介されました

立川市にある美術館「PLAY! MUSEUM」にて、動物をテーマにした展覧会「どうぶつ展」が開催されています。展示と連動して、東京都内の“どうぶつ”にまつわる施設やお店を楽しく紹介する「どうぶつマップ」が作成され、その中で本学のことを紹介していただきました。

「どうぶつマップ」では、本学で見ることができる動物として馬を紹介していますが、博物館ではたくさんの野生動物の剥製を展示しています。興味のある方はぜひ“どうぶつ”に会いに当館まで遊びに来てください。

#playmuseum #どうぶつ展 #どうぶつMAP #日本獣医生命科学大学 #博物館

■ どうぶつ見にいこう！キャンペーン「どうぶつMAP」

<https://play2020.jp/article/doubutsu-animalmap/>

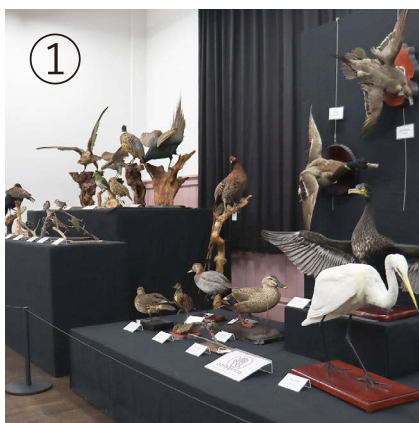
■ 「どうぶつ展 わたしたちはだれ？どこへむかうの？～WHO ARE WE? WHERE ARE WE GOING?」

<https://play2020.jp/article/doubutsu/>

■ 来館案内

<https://www.nvlu.ac.jp/universityinstitution/004/access/index.html/>

当館は事前予約制ですので、こちらのページからご予約をお願いします



- ① 当館で見ることができる身近な野鳥たち
- ② シカやイノシシなどの中型哺乳類もいます
- ③ アマミノクロウサギは雄、雌、骨格標本を展示中。奄美大島の動物たちの剥製は5月31日までの限定で公開しています

【活動日誌243】馬の解剖模型が移管されました

当館では大学で使われていた古い教材を資料として収集しています。3月末に、獣医学科産業動物臨床学研究室の味戸忠春教授(当時)から、本学の付属牧場で保管されていた馬の解剖模型をご提供いただきました。

こちらの模型は以前は大学にて展示されていたものの、実習などで使用するために牧場に移されたものだそうです。現在では牧場でも使わなくなり、倉庫にしまい込まれていましたが、牧場長でもあった味戸先生が博物館への移管をご提案くださり、博物館まで模型を運んでくださいました。

模型の台座には「京都科学標本株式会社(島津製作所標本部継承)京都・東京」と書かれています。京都科学標本株式会社は現在も「株式会社 京都科学」として残っており、社名の表記を考慮すると1948年から1988年の間に作られたもののようです。長年倉庫に保管されていたため汚れが目立ちますが、精密に作られた各パーツがしっかりと残っています。

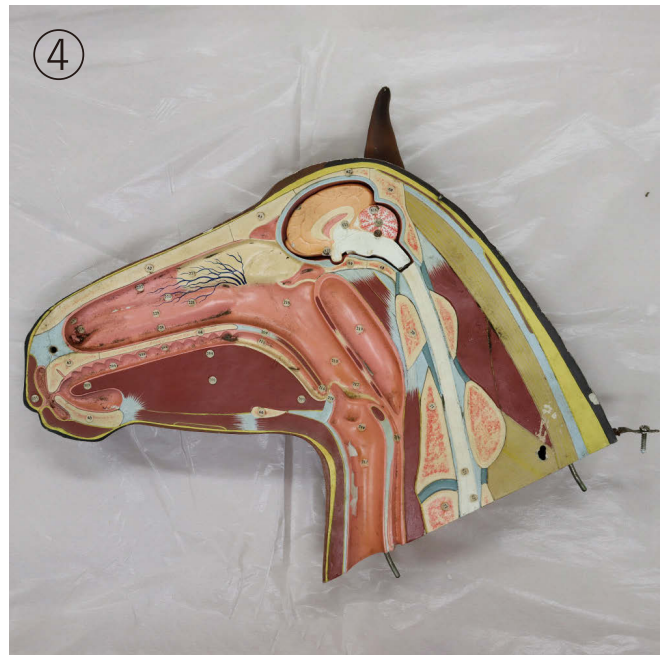
この模型が大学においていつ頃どのように授業で使われていたのかについては、残念ながら記録が残っていません。facebookをご覧の本学卒業生の方の中に模型についてご存じの方がいらっしゃいましたら、ぜひお知らせください。

参考: KYOUTO KAGAKU 企業情報 沿革(2025年3月21日閲覧)

<https://www.kyotokagaku.com/jp/corporation/index.html>

(学芸員 石井)

模型 # 日本獣医生命科学大学 # 博物館



- ① 搬入時の様子
- ② 模型の全体像
- ③ 頭部のアップ①: 血管や筋肉の一つ一つに番号が振られています。写真には写っていませんが腹腔内の各臓器にも番号がついており、各パーツの名称がわかるようになっていたようです。残念ながら番号と対になるリストは紛失しています。
- ④ 頭部のアップ②: 頭部は左右に開くことができ、内部構造までしっかりと作り込まれています。

【活動日誌244】骨格標本の整理作業について

以前ご紹介したアシカの骨格標本の記事で、天尾弘実名誉教授の紹介で本学の卒業生の方から骨格標本の寄贈のお申し出をいただき、寄贈していただく予定の標本を一部博物館でお預かりしていることをご報告しています。現在当館では、本学の学生や外部からボランティアで参加してくださっているみなさんの協力を得て、お預かりしている骨格標本の整理作業を進めており、今回はその様子を報告させていただきます。

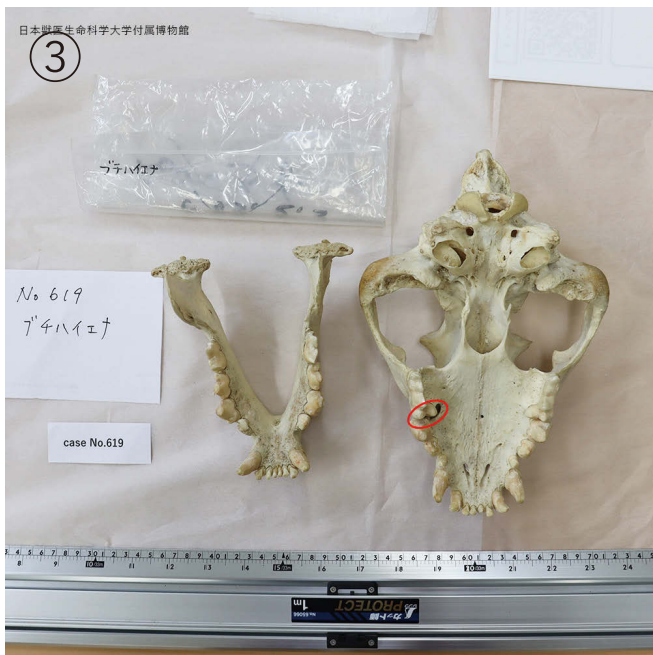
整理作業では標本ごとにどういう骨があるかがわかるように並べて、整理番号と、(種名や死亡日、標本にした日などの記録があればそれらの情報も含めて)標本に付されていた情報を紙に書いて、それらを一緒に写真撮影し、記録を取っています。

この時にまず手がけたのはゴマファザラシです。以前紹介したアシカの胎児の骨格標本と同様にほぼ全身が揃っていたため、頭から尻尾まで順番に骨を並べました。アシカとアザラシの頭蓋骨を比べると、確かに鼻骨の外縁部の形状が異なっていることがわかりました。またミナミアフリカオットセイの骨格標本も同様に作業しました。ミナミアフリカオットセイの標本はわかっているだけで3点あり、1つの標本は四肢のみで、もう1つの標本は頭蓋骨と頸椎の一部、3つ目の標本は頭蓋骨と頸椎の一部に加えて、左半身の前肢・後肢の骨がありました。この時の作業では2日間でこのほかにもハイエナ2種ほかの頭骨などの形態の観察と写真撮影も行いました。

骨格標本の整理は今後も学内外のみなさんの協力をいただきながら継続し、最終的には標本リストを作成した後に正式に骨格標本を博物館へご寄贈いただく予定となっています。寄贈手続きを終えた後には、貴重な標本たちをみなさんにも見ていただけるよう活用していきたいと思います。

(学芸員 廣瀬)

日本獣医生命科学大学 # 博物館 # 骨格標本



- ① ゴマファザラシの頭蓋骨。鼻骨の外縁部は細長く頭頂部に向かって伸びているため、アシカと異なることがよくわかりました。
- ② ミナミアフリカオットセイの肩甲骨。体の大きさに対してとても大きく、人間や犬だと1本しかない隆起部分(右の大きい方が肩甲棘)が2本確認できました。
- ③ ブチハイエナの標本の記録写真。上顎骨に虫歯が進行してできたものと思われる溝ができていました(赤丸の箇所)。

【活動日誌245】2025年度学芸員課程実務実習：資料の整理

当館は本学で学芸員課程を履修している学生の実習の場としての役割を担っています。先日から今年度の学内実習(実務実習)が始まりました。初回は学芸員課程にて博物館資料保存論と博物館情報・メディア論をご担当いただいている外部講師の奥田先生による実習です。奥田先生には、昨年から引き続き「資料の情報整理と展示の立案」をテーマに実習をしていただきました。

この実習では、博物館が所蔵する書籍の中から班ごとに展示をしたい本を選んでもらい、書籍のタイトルや発行者、発行年などの情報を整理した上で、書籍の展示方法や展示内容を立案してもらいます。先日の実習では、資料を扱う上での心得や身だしなみの注意点を教えていただいた上で、学生たちは書籍の選定と情報整理を行いました。

今回の実習のために、博物館が所蔵する書籍の中から、古い動物図鑑や大学史に関連した書籍など様々な種類の書籍を用意しました。ペットに関する本や家畜に関する本など、普段自分たちが学んでいる学問に関連する本を選ぶ学生が多いようです。これらの書籍を活用した展示の立案の様子は、次回以降のfacebookの記事でご紹介いたします。

(学芸員 石井)

博物館実習 # 日本獣医生命科学大学 # 博物館



- ① 講義の様子。実習のスケジュールやどんな作業を行うかを最初に説明します。
- ② 一号棟で情報の整理と展示に用いる本を選んでいる様子。必ず机の上に置いて両手で持って内容を確認してもらうことにしています。
- ③ 展示の内容を話しながらまとめている様子。

【活動日誌246】2025年度学芸員課程実務実習：展示の立案

5月18日の記事(活動日誌245)に引き続き、奥田先生による学芸員課程学内実習(実務実習)の様子を紹介いたします。本学の学芸員課程学内実習は3名の教員によるオムニバス形式となっており、各先生にはそれぞれ2回ずつ実習を担当していただいています。奥田先生による2回目の実習では、前週に行った資料整理の内容を踏まえ、班ごとに資料を活用した展示の案を発表してもらいました。

どのような人を対象に、いつ、どこで、どんな資料を、どのように展示するのか、学生たちには自由に考えてもらいました。「地域の子どもたちに野生動物を取り巻く問題を伝えるため、地域の博物館で出張展示を行う」「伴侶動物の飼育の歴史と適切な飼育管理を紹介するため、犬を連れて大学を訪れた人を対象とした展示を行う」など、これまでの当館の活動とは異なる、個性的な案がたくさん立案されていました。

奥田先生による実習は今回で終了となりますが、残りの2人の先生による実習の様子もfacebookにて紹介したいと思います。

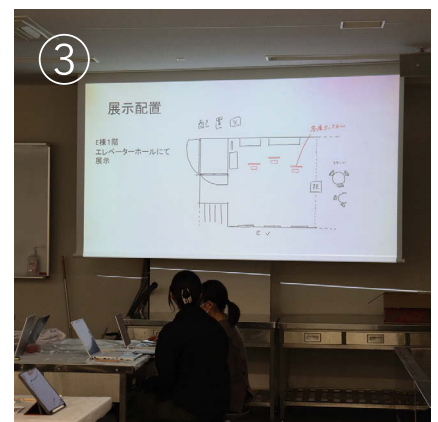
(学芸員 石井)

博物館実習 # 日本獣医生命科学大学 # 博物館

■【活動日誌245】

<https://www.facebook.com/nvlu.wildlife.museum/posts/pfbid031hCtMbURDdPKy74ZFuQCjASD7orgmAyaqKYcv6ZwXMvycR2g7n6aSV1tC76ZepygI>

奥田先生による初回の実習の様子はこちら



- ① 発表の様子① 発表は班ごとに行い、班のメンバー全員が前に出てきて交代で説明していました。
- ② 発表の様子② 班のメンバーそれぞれが選んだ本の中から、実際に展示する資料をそれぞれの班で選んでいます。
- ③ 発表の様子③ 展示場所やどのように配置するかについても具体化している班もありました。

【活動日誌247】国際博物館の日に特別解説を実施しました

当館は令和7年3月31日付けで改正博物館法による「登録博物館」として新規登録されました。これを記念して、国際博物館の日である5月18日に開催された本学のオープンキャンパスにて2つの特別解説を実施しました。

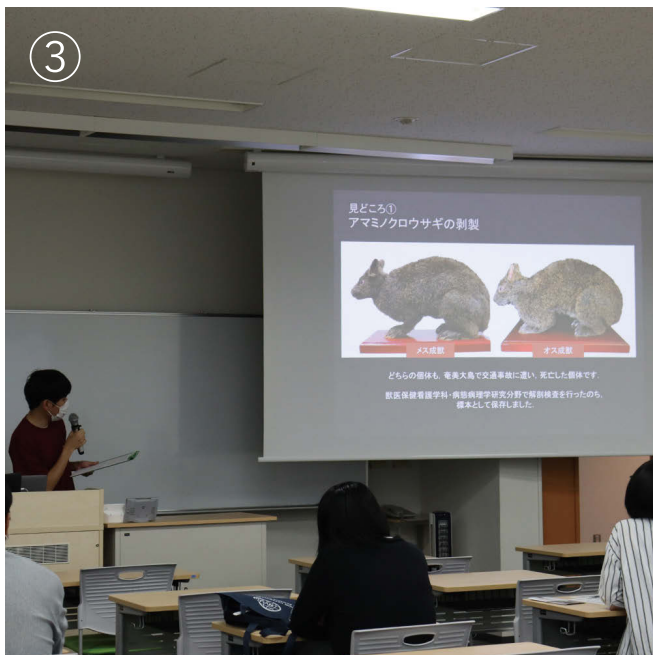
1つ目の特別解説は当館学芸員による活動紹介です。当館の活動を知っていただくため、博物館として登録された経緯を紹介するとともに、建物の特徴を解説しました。2つ目の特別解説は現在開催中の特別展「NVLU奄美プロジェクト - 研究・保全・そして未来 -」に関連したもので、展示にご協力いただいた本学獣医保健看護学科病態病理学研究分野の教員と大学院生に研究の背景や特別展の見どころを紹介していただきました。当館の存在を知らなかった、まだ展示を見ていない、という人がたくさん参加されていましたが、特別解説を通じて当館の活動に興味を持っていただけたのではないかと思います。

なお、次回のオープンキャンパスは7月を予定しています。7月のオープンキャンパスでは新たな展示が始まっている予定です。特別解説を通じて当館のことを知ってくださった皆様も、またぜひ博物館に遊びに来てください！

（学芸員 石井）

#日本獣医生命科学大学 #博物館 #登録博物館 #国際博物館の日

#InternationalMuseumDay #IMD2025



- ① 特別解説①「学芸員による活動紹介」の様子
- ② 特別解説②「獣医保健看護学科病態病理学研究分野による特別展解説」の様子 その1
奄美で実施している研究プログラム NVLU Amami Project について本学教員が解説しています
- ③ 特別解説②「獣医保健看護学科病態病理学研究分野による特別展解説」の様子 その2
特別展の企画にも関わった学生が、特別展の見どころを解説しています
- ④ オープンキャンパス全体では博物館の見学に 300 名以上の方がお越しください、特別展の会場となっていた自然系展示室は大賑わいでした。

【お知らせ】受験生応援企画『おうえんしナイト』にて 当館が紹介されました

ニッポン放送のWEBメディアの受験生応援企画『おうえんしナイト』にて、本学の獣医学部獣医保健看護学科が取り上げられ、当館のことも紹介していただきました。

4月に行われた取材では、お笑い芸人のランパンプスさんが博物館に来てくださり、当館スタッフが建物の歴史や展示の見どころを紹介しました。

現在公開されている記事では、前半に獣医保健看護学科の教員による学科紹介や博物館の様子が、後半に大学院生によるインタビューの様子が、それぞれ紹介されています。

受験生はもちろん、本学に興味をお持ちの皆様にお楽しみいただける内容となっています。ぜひ御覧ください！

ニッポン放送 # おうえんしナイト # ランパンプス # 日本獣医生命科学大学 # 博物館

■日本初の獣医保健看護学科！？ 動物に関わる分野を幅広く学べる、日本獣医生命科学大学にてランパンプスが徹底取材！

<https://news.1242.com/article/527672>

記事の前半はこちらでご覧いただけます

■猫アレルギーでも愛玩動物看護師になれる！？ 動物のリハビリを研究する、日本獣医生命科学大学の学生にランパンプスがインタビュー！

<https://news.1242.com/article/527949>

記事の後半はこちらでご覧いただけます

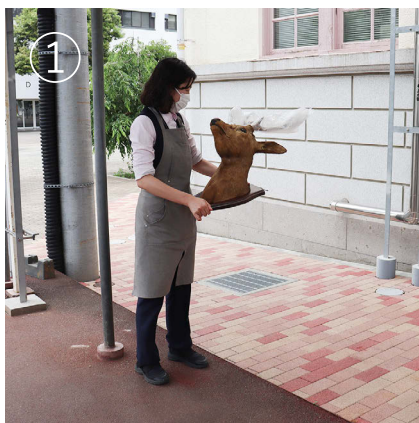
【活動日誌248】卒業生の方から剥製をご寄贈いただきました

先日、本学の獣医保健看護学科を卒業された方から剥製3点(キジ・ニホンジカ・チンカラ)をご寄贈いただきました。これらの剥製は狩猟をされていたご寄贈者様のお祖父様が集められたものだそうです。

キジの剥製は全身がきれいに残っています。当館は日本の里山の野生動物に関する資料を収集しており、里山の動物の代表例としてご寄贈いただきました。ニホンジカの剥製は、首から上のみが残された、いわゆる「ハンティング・トロフィー」と呼ばれるものです。全身の剥製に比べ移動が容易なため、展示室外でのイベントでの活用を検討しています。チンカラの剥製もハンティング・トロフィーの形になっています。こちらの標本は寄贈の相談を受けた際は種名不明とされていましたが、寄贈者様から「祖父がインドで狩猟をした際に作成したもの」との情報をいただき、捕獲場所や標本の外見からチンカラの剥製であると判断しました。チンカラは日本の動物ではありませんが、国内では標本が少なく貴重なものであることから、当館で寄贈をお受けすることとしました。

近年は今回のように卒業生の方から、大学史に関する標本や自然史標本をご寄贈いただく機会が増えてきました。自然史標本では里山に生息する身近な野生動物の標本や絶滅危惧種の標本を中心に資料を収集していますので、標本の処理にお困りの方はぜひ当館までお問い合わせください。

(学芸員 石井)



- ① 搬入の様子
- ② 寄贈された剥製
- ③ 寄贈の手続きを説明する様子